

ONE WORLD

Info

英語教育 通信



ベトナムの中秋節の様子。色鮮やかな提灯があちこちで売られている。

編集部の授業レポート 生徒が主体となるために～アクティブイングリッシュ～麹町学園女子中学校

中学校授業実践例 英語による「やりとり」を活性化するために… 小野 祥康

小学校外国語活動 チャレンジ学習（反転学習）を活かした授業づくり… 渡邊 知子

文科省関連情報 次期学習指導要領のポイント

連載 とっておきの英語12… 野田 小枝子

今ドキ英語事情14… Peter J. Collins

生徒が主体となるために ～アクティブイングリッシュ～

— 麴町学園女子中学校 授業レポート — (編集部)

教師の“Any volunteers?”の声に、生徒たちが身を乗り出して手を挙げる。

麴町学園女子中学の1年生の授業の様子だ。同校では、昨年の10月から安河内哲也氏(財団法人実用英語推進機構代表理事)を英語科特別顧問に迎え、山本三郎校長がいうところの「英語教育大改革～アクティブイングリッシュ～」の真っ最中だ。改革の柱としては、

- 1 音声教育の徹底
- 2 ICTのフル活用
- 3 チームティーチング
- 4 アクティブラーニング
- 5 モチベーションを上げる体験の提供

がある。

同校では、これら5つの柱を意識し、学校全体をあげて環境づくりを行うことにより、「アクティブイングリッシュ」の実現を目指している。

1 朝の音声活動

麴町学園女子中学では、朝の8時30分からの10分間、英語の曲を歌ったり、英文を音読したりする時間が設けられている。

7月の初めのある日も、プロジェクターで映し出された映像にあわせ、生徒たちは数字、時間、月、thisとthatを含む文などが盛り込まれた、さまざまな英語の歌を歌っていた。



「朝の音声活動」を通じて身につけるべき目標としては、次の3つ。

- ①意味をわかりながらスラスラ音読できるようになる。
- ②ネイティブ音声を聞いて100%スラスラわかるようになる。
- ③短文を暗唱して自分の言葉として言えるようになる。

「アルファベットから始めるのではなく、表現単位でネイティブの音声に触れるようにすることで、“使える英語”の定着を目指しています。」と山本校長。入学後まもない1年生であっても、ICTを活用し、そうした本物の音と表現にたっぷり触れることになる。



2 Student Teacher

「朝の音声活動」に加え、通常の授業においても、麴町学園女子中学では先生方が活発な発話を促すための工夫を行っている。

例えば、生徒が教師の役割を演じる Student Teacherがある。生徒ひとりが出て、What day is it today?やWhat's the time?など、日付や時間をクラスに問いかけ、全員でそれに対して答える。この日はそれに続いて、教師役の生徒が考えた Three-Hint Quizの発表。教師が出題するよ

りも、教師役の生徒が出題するほうが、聞いている側もより身近に感じ、盛り上がるようであった。ちなみに次がヒント。

1. talking everything
2. always stay with me
3. favorite persons (答えは“family”)

授業を担当する小川浩正教諭と須賀幸恵教諭は、生徒の活動をサポートするといったスタンスで授業を進行し、そこには「主役はあくまで生徒」といった雰囲気がある。

前述のThree-Hint Quizにおいても、“Father.”と答えた生徒に対し、“I think it’s father.”と言葉を添えるなど、授業の流れを止めることなく、生徒に使ってほしい表現をさりげなく導入していた。また、生徒の間違いに対しても、一通り発表が終わったあとで指摘するなどの配慮がされていた。



▲小川浩正教諭(左)と須賀幸恵教諭(右)は、コノ字に並べられた生徒の机の中心、ときに教師役の生徒に場所をゆずり、クラス全員の表情を見渡せる位置にいる

こうした教師のサポート体制とクラス全体から感じる生徒の積極性は、山本校長が掲げる「アクティブリッシュ」の賜物と言える。

「大切なのは、生徒の口がたくさん動くことだと思っています。インプットのためのネイティブ音声を真似た発話にはじまり、ペアワークやグループワークを通じての自発的発話に至るまで、授業の半分以上は生徒が活動している状況をつくります。先生がアクティブになるのではなく、生徒がアクティブにな

るのがアクティブラーニングですから」と山本校長はいう。また、「今の子どもたちはおとなしい子が多い。英語が得意になることで、自己肯定感をもってほしい」と願っている。



▲ Student Teacher が活躍する様子

3 スピーキング・ポイント

ほかにも、特徴的な取り組みとして、スピーキング・ポイントがある。前述の Student Teacherなどの活動で発表した生徒には1ポイントずつ与えられ、これを授業やそれ以外の場所で積み重ねると、定期考査のうちの25点分に相当するというもの。評価のうちの残る75点はリスニング、リーディング、ライティングに配分される。生徒たちは、こうしたポイントを得るためにも、より積極的に授業に参加することになる。



▲ ONE WORLD Time for Words 3「日付と序数」(p. 47)をつかった早読みゲーム
1st～30thまでの数字をペアになり交互に読み上げ、タイムを競う。



▲生徒が主体となり行う“Bingo”
タテマスとヨコマスを生徒ひとりが前に出て発表し、もう一方の生徒が、電子黒板に英単語を書き入れていく。この日は、動詞についての単語のビンゴ。聞いている生徒たちは、事前に記入しておいた手元のシートと照らし合わせながら取り組む。



▲既習の単語・表現を使った自主英作文の発表
授業では「教科書の本文は必ず音読し覚える」ことが求められる。生徒たちは、覚えた表現をうまくアレンジし、自己表現へと結びつけていた。

4 英語を使う体験を与える

「モチベーションを上げる体験の提供」を掲げて開設したi Lounge (アイ[インターナショナル]ラウンジ) も学校をあげて行っている環境づくりのひとつ。この部屋では、生徒は英語しか使ってはいけない、いわゆる「英語村」だ。常駐のALTと3回話すと、スピーキング・ポイントが1ポイントもらえる。生徒たちにとって、自分の英語が伝わった瞬間は、何よりのモチベーションになるだろう。



◀ i Loungeの様子
海外のボードゲームやレベル別の読みもの、壁には留学情報なども貼られており、自由な雰囲気。

5 最後に

授業後、両教諭の話の中で印象的だったのが、「帰納法的学習」ということばである。生徒たちは、正解を教えられる、あるいは、教師に続いて正解を復唱するのではなく、積極的に自分のことを表現し、失敗を繰り返す中で自ら学んでいく。

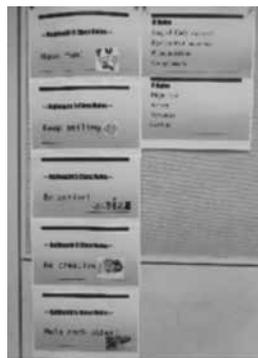
英語が得意な生徒も苦手な生徒も、「とにかく英語を楽しんでみよう」という雰囲気が感じられる麹町学園女子中学。昨年からの取り組みの成果を、1年生の生徒らの表情が何よりも物語っていた。

ほかにもさまざまなところにしかけが…



◀ 校内の壁のいたるところに著名人の名言が貼られている。i Lounge主催のクイズ大会では、校内のどこかに貼ってある名言を生徒たちに探させる。

- ▲教室には以下のような“Kojimachi 5 Class Rules”が貼られている。
- 1 Have fun!
 - 2 Keep smiling!
 - 3 Be active!
 - 4 Be creative!
 - 5 Help each other!



英語による「やりとり」を活性化するために

北海道教育大学附属旭川中学校 よしやす 小野 祥康

1 はじめに

本学に8校ある附属小・中学校は、平成25年度から文部科学省の研究開発指定を受けており、小学校では1年生から教科としての「英語」を実施している。そのため、中学校においては、英語への興味・関心だけではなく、コミュニケーション能力をきちんと身に付けて入学してくる生徒に対して、どのような授業を行い、3年をかけてどういった姿を目指していくのか、CAN-DOリストで4技能の明確なゴールを見据え、実践を積み重ねていくことが大切である。

とりわけ、「話すこと」では、与えられたテーマでスピーチをするといった言語活動では力がついてきているが、その場で質問されたことについて即興で答えたり、会話をさらに継続したりするといった「やりとり」を行わせる点では、なかなか実践が難しい現状もある。

本稿では、英語の「やりとり」を活性化するために行った1つの授業を紹介したい。

2 発問で生徒の心を動かす

生徒が英語で「やりとり」しようと思う原動力は、その話題について自分が話したい、やってみたいという意欲が喚起されることだろう。そういう意味では、特に教科書本文の内容を扱う際に、どのような発問をするかが非常に重要であると考える。

平成24年度版ONE WORLDの1年生で、筆者がいちばん心に残った単元は、Lesson 6「メイの誕生日パーティー」であった。特に、Part 4で他の登場人物がメイに誕生日プレゼントをあげる場面では、生徒もかなり盛り上

がった。28年度版の新しい教科書では同じような場面はないが、Lesson 3「メイの好きなもの」では、タイトルの通り、メイ自身が自己紹介をしたりケンタやボブとやりとりしたりする場面を読み進めることで、メイの好きなものについてどんどん情報を集めていくことができる。そこで、本時では、前回の教科書の話題に倣って次のように生徒に問いかけた。“If you are invited to Mei’s birthday party, what will you give her?”

この発問に対する生徒の反応は、『え?』『何を贈ろうかなあ?』『ねえちょっと! あなたなら何を贈る? 私はねえ…』という感じで、おおむね「話してみたい」「やってみたい」と思わせることができた。このあと、生徒にどのような「やりとり」が期待できるだろうか。

3 「やりとり」を促すためのポイント

すでに実践されている先生方も多いとは思いますが、発問に対して予想される生徒の表現などをリスト化し、事前に練習している。筆者はこれを「やりとりリスト」と呼んでいる(7ページに掲載)。

例えば、前述の発問について、筆者がモデルとして生徒に示した「やりとり」は以下のようなものである。

A: What will you give her?
 B: I think a CD is good for her.
 A: Why do you think so?
 B: Look at page 38. Kenta asks, “Do you like music?” And Mei says, “Yes, I do.” So I will give Mei a CD. How about you? ...

一見、1年生には難しい表現が含まれているが、このような「やりとり」ができるよう

に表現をリスト化して練習しているの、生徒はある程度見通しをもって取り組めるようになってきている（もちろん、全員がここまで最低限話せるようになるには、相当な時間を要する）。

生徒はこのモデルを聞き、『自分ならCDより〇〇のほうが良いと思う。なぜなら…』といった考えを巡らせていたようで、まずは個人で考えるように指示したところ、早速あちこちページをめくり始めた。



次に、ペアになり、1分30秒の時間を与え、なるべく教師のモデルに近いような形で会話を継続するように促した。生徒は教科書や「やりとりリスト」を見ながらではあるが、お互いに自分の考えを伝えていた。さらにペアを変えて、これと同じことを行った。

4 即興で話す力を高めるために

いきなり切り出された話に対応したり、質問されたことにその場で答えたりするには、そうした練習を積み重ねていくことが大切である。しかしながら、突然違う話題になると、どう話を継続すればよいか分からなくなるであろう。

そこで、また違うペアにして、発問の一部を変え“What will you give Bob for his birthday?”と問いかけてみた。メイではなく、ボブの誕生日だったら何を渡すかを考えさせたのである。生徒は『え～、ボブ??』『どうしようかな？ 何が好きだったけ?』と

言いながら、また教科書をめくり出し、「やりとりリスト」を見ないでも話せる生徒が増えてきている様子だった。

さらにこのあと、筆者の誕生日であれば何をくれるかをたずねてみた。『小野先生???』『ん？ 何が好きだって言ってたっけ…』などと言いながら考え始めていたが、もう教科書には何の情報も書いていない。これまでの授業の内容を思い出しながら、さらに違うペアで「やりとり」を行った。

全体での振り返りでは、自分の考えをぜひみんなの前で話したいという手が次々に挙がり、ペアで発表させたところ、例えば次のような会話をしていた。

S1: What will you give Mr. Ono?
 S2: I think a new tennis racket is good for him.
 S1: Why do you think so?
 S2: Because he is a coach of the tennis team. But his racket is old. So I think a new racket is good. How about you?
 S1: I will give him a ...

聞いている生徒も、“Oh!” “That’s a good idea!” “I think so, too.” などと言いながら相づちを打つ様子が見られた。

5 自己との関連性をもたせる

最後に、もう一度だけペアを変え、そのペアの誕生日に何をあげるかをたずねた。そして、ペアのことを知るための質問をしてもよいことにした。

生徒は、これまで学習してきた質問の表現などを総動員しながら、“When is your birthday?” “Do you like music?” “What sport do you like?” などとたずね合うなどして、何をあげたら相手が喜ぶかを考えながら会話をしていた。

このように、本時では、教科書の登場人物に何をプレゼントするかを話し合わせたあと、最終的にはお互いに何をプレゼントする

かを考えさせることで、お互いを知るために質問する必然性をもたせることもできた。

今後も、教科書を活用して生徒の心を動か

す発問を工夫するとともに、英語による「やりとり」を活性化するために必要な策を講じていきたい。

やりとリスト (Vol.2)

1	体育館で	→ in the gym
2	グラウンドで	→ on the field
3	毎日	→ every day
4	わたしのお父さんの車	→ my father's car
5	それはすごい。	→ That's great.
6	それはよいアイデアだ。	→ That's a good idea.
7	あなたはペットを飼っていますか？	→ Do you have any pets?
8	はい。ハムスターをいくつか飼ってます。	→ Yes, I do. I have some hamsters.
9	いいえ。ペットは飼っていません。	→ No, I don't. I don't have any pets.
10	あなたは何か果物がほしい？	→ Do you want any fruit?
11	*日曜日には何をしますか？	→ * What do you do on Sundays?
12	テレビでサッカーを観ます。	→ I watch soccer on TV.
13	英語を勉強します。	→ I study English.
14	彼はアメリカ出身です。	→ He is from America.
15	彼女は毎日ギターをひきます。	→ She plays the guitar every day.
16	彼はバスケットボールが好きです。	→ He likes basketball.
17	彼女はペットを飼っていません。	→ She doesn't have any pets.
18	ケンタは「 <input type="text"/> 」と言ってます。	→ Kenta says, " <input type="text"/> ".
19	メイは「 <input type="text"/> 」とたずねています。	→ Mei asks, " <input type="text"/> "?
20	メイは新しいラケットが1つほしい。	→ Mei wants a new racket.
21	私は○○がよいと思います。	→ I think ○○ is good.
22	私はケンタに○○をあげます。	→ I will give Kenta ○○.
23	なぜそう思いますか？	→ Why do you think so?
24	38 ページを見てください。	→ Look at page 38.
25	そして	→ and
26	しかし	→ but
27	なぜなら	→ because
28	だから	→ so

▲ 「やりとリスト」

生徒が即興で会話を行う際のヒントになるような、単語、表現、フレーズなどを一覧にしている。このほかにも、日課や職業、あるいは教科書のレッスンに登場する単語ごとなど、やりとりに使えるものをシート別に整理している。

チャレンジ学習（反転学習）を活かした授業づくり

千葉県鴨川市立田原小学校 渡邊 知子

鴨川市では、幼稚園では月に1回、小学校1年生から4年生は毎週20分、5、6年生は毎週45分の英語の授業を行っています。本校では平成27年度から、高学年で反転学習を取り入れ、英語で生き生きとコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てることを目指し、研究を進めています。

1 チャレンジ学習（反転学習）って？

習得を授業で行い、活用を宿題とするという従来のスタイルを入れ替える授業方法が「反転学習」と呼ばれるものです。本市では、本校に40台のタブレットを導入し、反転学習に役立てています。外国語学習には、単語や会話の表現等を習得する時間と、それらを活用する時間があります。この習得の時間を、子どもたちが自宅でタブレットを使い、予習する時間としています。事前に教員が習得内容の動画を作り、その動画を入れたタブレットを子どもたちが自宅に持ち帰って予習します。

授業では、子どもたちが自宅で予習してきた内容を活かして、活用の学習を中心に進め

ます。

子どもも教師も「新しいことにチャレンジしよう」という思いを込めて、この反転学習を、チャレンジ学習と名付けました。チャレンジ学習の利点は、授業前に動画を視聴し、会話に必要な単語や表現などを予習することで、授業におけるアクティビティをより充実させられることです。

動画を活用した予習により、授業中のアクティビティの質や量の向上を図れば、コミュニケーション能力を育むことにつながると考えています。

2 発達の段階に合わせた活動

低学年の児童は、相手の話や言葉を論理的に理解しようとするより、体感的に捉えることが得意です。そこで、体を動かしながら英語に触れるアクティビティを充実させる必要があります。

中学年の授業は高学年の反転学習につながるように構成しています。まず、第1時にその単元で必要となる単語や表現を重点的に学習し、第2時以降は、単語等を確認する時間を徐々に減らし、コミュニケーションを図るための時間を確保するとともに、アクティビティの内容を工夫しています。

高学年では会話に必要な単語や表現が増えたり、一単語、一文が長くなったりして、反復練習が必要になります。週1回の授業だけでは、次週に既習内容を活かすことも難しく、復習にも時間がかかります。しかし予習動画があれば、いつでも単語や表現の学習ができるため、右図のようにアクティビティの時間を十分に確保することができ、英語でのあいづちや自己表現活動を充実させることも



▲次の授業で扱う表現を使ったALTとHRT(担任)とのデモンストラクションが、児童の予習動画となる

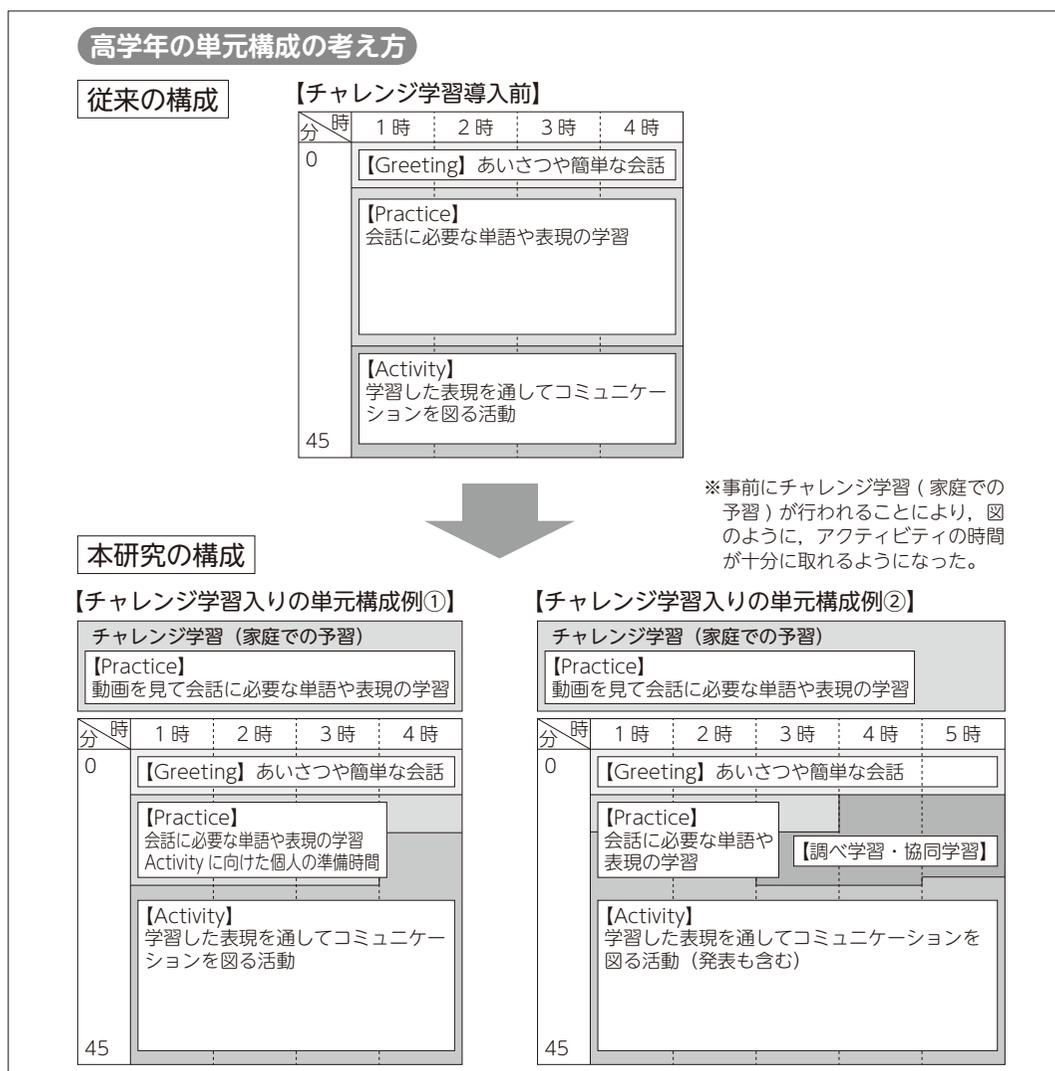
可能になります。

また、コミュニケーションに自分の思いを込めることも高学年の重点事項としています。そこで、ALTに「自分ならではの」表現を教わったり、辞書等で調べたりする調べ学習や、友だちと確認し合う協同学習を単元中盤から取り入れることもあります（下図右下の単元構成例②）。協同学習では、自分が話している様子をタブレットで撮影してもらったり、相手にわかりやすく伝わるよう、各自が画像等を用意したりもします。

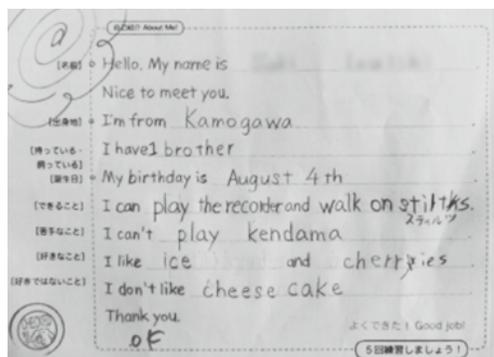
③ 授業の様子 — 6年生 “Self Introduction” の単元を例に—

6年生の“Self Introduction”の単元では、それまで学習した表現を使って自己紹介をしたり、簡単な質問をしたりすることを目標としています。

まず、自己紹介の流れがわかるような予習動画のお手本を、教師がALTの協力を得て作成します。子どもたちは、家庭でそれを見て、自分の自己紹介の内容を考えて授業に臨みます。英語の表現がわからない部分はワー



クシートに日本語で書いておき、授業でALTやHRT(担任)に質問をしたり、辞書で調べたりします。“How do you say～in English?”と、知りたい単語の発音やスペリングを質問し、以下のようなワークシートを完成させます。その後、各自の自己紹介の内容をALTに英語で話してもらい、それをタブレットで撮影します。これが自分だけの予習動画となります。



動画の作成過程においては、一人一人表現も内容も異なるため、聞いている友だちの理解の助けとなるように、関連する写真や動画などの撮影も、各自に考えさせて行わせました。本校は、幼稚園から同じ仲間です学校生活を送っているため、「友だちにとって意外な自分」を紹介しようと、内容を工夫している姿も見られました。

さらに授業では、「相手に伝わりやすいように、どのような話し方をすればよいか」「自己紹介を聞いて、言いたくなるあいづちは英語でどのように言うのか」「聞くだけでなく、簡単な質問ができないか」など、少しずつ会話が長く続くよう、学習を積み重ねました。

子どもたちは、用意した映像を見せ合いながら、「ゆっくり話した方がいいんだ」「自分と好きな物が同じだったら“Me, too.”って言おう」「かわいいと思ったら“cute”って言いたいな」「○○さんのペットの名前が知りたいな」「写真にあるこれは何?って聞きたいな」等、いろいろなことに気づきなが

ら、友だちの自己紹介に興味をもって学習を進めることができました。

最後には全員の前で発表をすることになっていましたので、落ち着いて話すことができるよう、単元前半はペア活動を多く取り入れました。そして発表時には、子どもたちから積極的に英語で質問が出てきました。



▲好きなものの写真などを自分でタブレットに取り込み、ペアで自己紹介をし合う6年生

4 おわりに

このようなチャレンジ学習を通して、授業内容がずいぶん変わりました。また、子どもたちの意欲も向上していると感じています。一方で、予習動画の原稿作成や撮影、編集、タブレット40台へのデータのコピー等、チャレンジ学習の苦労も多く、一般化への道の険しさも感じています。今年度の公開研究会を以下の日程で行います。ぜひ多くの方にご参会いただき、子どもたちの様子を見ていただくとともに、忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。

公開研究会のご案内

日時：平成28年11月16日(水)
13:00～ 研究授業(3年生以上)
場所：千葉県鴨川市立田原小学校
(JR安房鴨川駅より車で10分)
全体講演講師：文教大学教育学部
金森 強 教授

次期学習指導要領のポイント

編集部

昨年秋から行われてきた中教審（中央教育審議会）の議論が6月に概ね終了し、8月1日に、次期学習指導要領に向けた「審議のまとめ（素案）」が出されました。主な内容をご紹介します。

●評価の観点は3つに整理

教科を超えた取り組みを促す観点から、外国語教育における観点別評価は、資質・能力の3つの柱を踏まえ、①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体的に学習に取り組む態度という「3つの観点」で整理される予定です。

なお、「知識・技能」については、「語彙・表現や文法などの知識の習得に主眼を置くのではなく、それらを活用して実際のコミュニケーションを図ることができるような知識として習得されるとともに、自律的・主体的に活用できる技能が外国語の習熟・熟達に向かうものとして評価することに留意する」とされており（下線は編集部）、「外国語を使いながら学ぶ」という方向性がより強く打ち出された形となっています。

●実際のコミュニケーションで生きる力を

小学校での教科化も踏まえ、中学校での目標案も以下のように変わります。また、技能ごとに指標形式の目標も示される予定です。

◎外国語の見方・考え方を働かせ、コミュニケーションの目的を理解し、見通しを持って目的を実現するための聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる総

合的な言語活動を行うことを通して、簡単な情報や考えなどを外国語で理解したり表現したり伝え合ったりすることができる資質・能力を、次の通り育成する。

①外国語を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙・表現、文法を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを用いた実際のコミュニケーションの場面において活用できる基本的な技能を身に付けるようにする。

②外国語でコミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、日常的・社会的で具体的な話題について理解したり表現したり、簡単な情報や考えなどを交換するなどして伝え合ったりすることができる力を養う。

③外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

●語彙も増加、授業は英語で

指導語彙も増加します。実際のコミュニケーションにおいて必要な語彙を中心に、小学校で600～700語程度、中学校で1,600～1,800語程度、高等学校で1,800～2,500語を指導することが示される予定です。

このほか、授業は基本的に英語で行うこと、4技能を測る学力調査導入など、「使える英語力」を目指し大きな変革が示される見込みです。

編集部からのご案内

★教育出版ウェブサイトをご活用ください★

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/chuu/eigo/index.html>

▶夏休み前までのレッスンの復習に役立つ「サマー・ワークシート」

▶どなたでも無料でご使用可能な「教科書本文の音声データ」



映画に登場する、
とっておきの英語をご紹介します。

とっておきの英語・12

You never really understand a person... until you climb into his skin and walk around in it.



邦題：『アラバマ物語』
原題：To Kill a Mockingbird
製作国：アメリカ
製作年：1962年
監督：ロバート・マリガン
主演：グレゴリー・ペック
DVD：ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン

津田塾大学大学院 野田 小枝子

今回は、かなり昔の映画になりますが、かえってご存知ない若い先生方もおいでかもしれないと思い、『アラバマ物語』を取り上げることにしました。

1962年、東京オリンピック開催の2年前に公開された映画で、英語のタイトルは原作のハーパー・リーの自伝的小説と同じタイトル、*To Kill a Mockingbird*です。

このストーリーの背景となる年代は、さらに30年前の1932年になります。1929年の世界恐慌から間もない時代、アメリカではまだ失業者も多く、生活に苦しむ農家が多かった時代です。

アラバマ州に住むスカウト (Scout) はいつもジーンズのつなぎを着ている活発で好奇心の強い6歳の女の子です。スカウトと言うのは呼び名で、本当の名前はジーン・ルイズ・フィンチ (Jean Louise Finch) です。兄のジェム (Jem) は10歳で、スカウトの喧嘩を止めたり喧嘩相手を夕食に招待したり、かなり大人びたところもある少年です。

2人の母親はだいぶ前に亡くなり、弁護士である父、アティカス (Atticus) と暮らしています。2人の面倒を昼間見たり、食事を作るのは黒人のカルプーニア (Calpurnia)

の仕事になっています。

この映画ではスカウトが小学校に登校するようになる頃から翌年のハロウィーンの晩までの間の出来事が描かれています。

隣にディル (Dill) という、スカウトと同じ年の男の子が叔母の家で過ごすため、夏休みになるとやってきて、この3人で、「危険な」住人ブー (Boo) の住む怪しい家の近くに行く肝試しをしたりして遊んでいます。

このディルが後に著名な米作家となるカポーティ (Truman Capote) の子どもの頃をモデルにしていると考えたとそれなりの面白さも加わります。

タイトルはアティカスが父親に言われたこと、「ほかの鳥は撃ってもかまわないが、マネシツグミ (mockingbird) だけは撃ってはいけない。」ということばに由来します。

「なぜ？」と聞くスカウトに、アティカスは「マネシツグミは、歌を歌ってくれるだけで何も悪さはしないから。」と答えます。

ストーリーは、白人女性に乱暴したという容疑で捕らえられた黒人男性、トム・ロビンソン (Tom Robinson) の弁護をアティカスが引き受けたことに始まる一連のできごとが中心になります。

今回「とっておきの英語」に選んだのは、スカウトの小学校登校第1日目にアティカスが言って聞かせることばです。この日、スカウトは先生に注意されたり、クラスメイトと喧嘩をしたり、カルプーニアに叱られたり、さんざんです。「もう学校に行かない。」と言うスカウトに、アティカスは次のようなことを言います。

Atticus : Now wait a minute. If you can learn a single trick, Scout, you'll get along a lot better with all kinds of folks. You never really understand a person until you consider things from his point of view.

(ちょっと待って。たったひとつワザを知っているだけでいろんな人とずっとうまくやっていけるようになるよ。その人の立場に立ってものを考えないと人のことは本当にはわからないものだよ。)

Scout : Sir?

(どうのこと?)

Atticus : Until you climb into his skin and walk around in it.

(つまり、その人の皮膚をまもって歩き回ってみないとその人を本当に理解するなんてことはできないんだ。)

アティカスのこのことばは、この映画の最後まで響いています。ジェムもスカウトもブー(ロバート・デュバルのデビュー役)のことが最後でわかるようになるのです。

また、アティカスがロビンソンの弁護を引き受けたことについて、黒人の弁護をすることで非難する人が出てきます。スカウトが学校でクラスメイトからそんな親たちの非難の声を聞くようになります。弁護をするなという声もあるのになぜ弁護するのかとスカウトは尋ねずにはられません。

Scout : If you shouldn't be defending him, then why are you doin' it?

Atticus : For a number of reasons. The main one is, if I didn't, I couldn't hold up my head in town. I couldn't even tell you or Jem not to do something again.

(理由はたくさんあるさ。大きな理由は、もし弁護しなかったら、この町で胸を張って歩けなくなるということだ。スカウトやジェムにこれをしてはいけないうことすらできなくなるんだ。)

法廷のシーンはショッキングですが、本当に学べるところの多いシーンです。アティカスによるロビンソンの弁護は完璧です。最後に12人の全員白人男性の陪審員たちに、ロビンソンを家族のもとへ返してあげてくださいと力強く説得をします。

法廷でも白人と黒人が座る場所は分かれており、1階は白人、2階は黒人の傍聴席です。1階に座れなかったスカウトたちは、黒人のサイクス牧師を見つけて2階にいさせてもらいます。

裁判が終わり、アティカスが法廷を最後に出ていくとき、2階に座っていた黒人が全員次々に立ち上がって敬意を表します。サイクス牧師がスカウトにも、Miss Jean Louise, stand up. Your father's passin'. と言って立つことを促す有名なシーンです。

南部のアクセントとともに、親を含め大人に対してSir, Ma'am と呼びかけたり、女性を呼ぶのにファースト・ネームにMissをつけて呼ぶ習慣も勉強できます。この映画のスカウト、ジェムは自分の父親をファースト・ネームで呼んでいます。これは一般的な呼び方ではないですが、アティカスが子どもをひとりの人格をもつ人間としてとらえているのが示されているような気がしています。

Generation Text: Growing up in the age of smartphones

Peter J. Collins
Tokai University

メールやSNSなど、ケータイで文章を打たない日はないですよ。そうしたテキストメッセージのやりとりを“texting”といいます。今回は、そこから派生することばをご紹介します。

A few *Imadoki Corner* articles ago, I introduced the term “Generation X” to describe people who have made the leap from analog to digital technology over the last 30 years. It’s safe to say that teenagers today, in contrast, can’t even remember a time before every thought, every idea, and every question was immediately texted to someone through a smartphone or tablet. How has texting impacted everyday English?

The verb **to text** itself is relatively new, originating in roughly 2005, according to the Online Etymology Dictionary. More recently, words have been coined to describe the kind of language used when texting. These include **textese** (“-ese” as in Chinese or Japanese) and **textlish** (a combination of “text” and “English”). To be more fluent in textlish, you might refer to an online **textionary**, a dictionary explaining the many words and abbreviations used in text messaging. There is now even a smartphone app called Textionary

designed to help you parents who have trouble understanding your children’s text messages!

Using these terms appropriately is part of good **textiquette**, a play on the word “etiquette.” Without following proper textiquette, you risk offending a **textmate**, someone you regularly communicate with through texts. Building and maintaining a successful **textationship** (from “relationship”) is important when face-to-face interaction is not an option, and you must rely on **textersations** (from “conversations”) to stay connected with your textmate.

Some of your textmates may be particularly **textative** (a word deriving from “talkative”), texting you frequently and clearly enjoying every textersation. Others may not be very active textmates; they may even fail to respond to your most urgent text messages. This constitutes **neglexting** you, a word that has its origins in “neglecting.” And there’s nothing more annoying than **textpectation**, the experience of waiting and waiting for someone to text you. Based on the word “expectation,” it describes that anticipation you feel as the minutes go by and your textmate still hasn’t responded. If you’re particularly angry with a

textmate, you may end up in a **textument**, (from “argument”) where the two of you furiously text accusations and complaints back and forth.

The more texts you send, the more **texterity** you’ll build. This new word describes the ability to text quickly and accurately, and derives from the word “dexterity.” Some people are experts at texting quickly with both hands; in other words, they’re **ambitextrous**, a pun on the word “ambidextrous.” If you feel that your texterity is not sufficient, you may need to improve it by **textercising** (as opposed to the usual “exercising”). If you don’t, you may find your fingers cramping up from **textritis**, an arthritis-like condition where your fingers and thumbs are in pain from excessive texting.

A more common problem is **fat-fingering**. This describes typing mistakes you might make because the keyboard letters are too tiny for fingertips. Another frequent irritation is the auto-complete function that uses predictive texting to guess what word you intend to type. If, for example, you type “Ju,” your smartphone may suggest “Just” and “Jump” as options. You may think you’ve tapped on the correct word, or you may tap on neither of them. Either way, your smartphone may decide you mean “Jump” when you meant “Just,” but you might not notice it until you’ve sent the text. This wrong word is known as a **textonym**. As in “synonym,” the “nym” comes from the Greek for “name” or “noun.” This pun recognizes the little hazards we face these days when so much of our communication is done in the form of text messages.

It’s also possible to tap on and send the wrong emoticon, or “emoji.” Back in the days of the typewriter, a careless mistake was known as a typographical error, or simply a “typo.” With banks of tiny, similar-looking emoji at our disposal nowadays, it’s easy to slip up and end up apologizing for an **emotypo**. For people who never use emojis, this is an unlikely problem; for **emojional** texters, however, this might happen regularly. A play on the word “emotional,” **emojional** refers to people who either fill their texts with emoji or communicate exclusively with emoticons.

We all know people who simply can’t stop texting... They do it during meals, on the train, while watching TV, and even while lying in bed long after midnight. They may even **multitext**, or hold multiple textersations simultaneously, for hours. They’re

textaholics, a nod to the word “alcoholics.” And after an extremely long texting session, a textaholic may feel **intexticated**, a word with its roots in the alcohol-related “intoxicated,” or drunk. If you’re walking or driving in a manner that makes you seem intoxicated, but you’re actually texting, then you’re **intexticated**. **Drexting**, a combination of “driving” and “texting,” describes the dangerous situation where someone is doing both simultaneously; at worst, this may result in a **textident**, an accident caused by texting. More and more cities are passing laws about walking and texting or drexting in an effort to reduce the number of textidents that take place.

As technology advances, Generation Text may soon evolve into some other kind of generation. But for now?



第14回

まもなく締め切り!!

地球となかよしメッセージ 作品募集 (2016年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2016年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



受け継がれる伝統と心

私は中学校で、かるた部に所属しています。私がかるたを始めたのは小学校四年生の頃です。私はこのときから、かるたが好きです。理由は、男女も年齢も関係なく、平等な立場で試合に立ち向かえるからです。また、いろいろな年代の方と話したり、仲良くなったりできるところも、試合をしている全員が、古くからある百人一首を一生懸命とっている姿も私のお気に入りです。百人一首が現在まで残っているのは、日本人が百人一首を大切にしてきたからだ、私は思います。なので、私も大好きな百人一首をこれから先も残せていけるように、かるたを続けていきたいです。

英語教育 通信 ONE WORLD Info (2016年秋号) 2016年8月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
印刷: 大日本印刷株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411